

審議会等の会議結果報告書

課所名

水道局営業課

会議名 平成29年度 第1回 諏訪市公営企業運営審議会

開催日時 平成29年10月26日(木)

出席者 <委員>
藤森貫治(会長)、渋江利明(副会長)、有賀秀子、武田なつ子、辰野博之、松木義文、守屋輝代、吉江徳男
<諏訪市>
金子ゆかり(市長)、河西活水(水道局長)、藤森孝昭(営業課長)、有賀孝治(施設課長)、岩波万佐巳(営業課庶務係長)、守屋行彦(営業課料金係長)、新村憲悟(施設課上水道係長)、後藤準市(施設課温泉係長)、乙黒勝美(施設課下水道係長)、堀川和俊(営業課庶務係主査)、向山陽光(施設課上水道係主査)
※傍聴者なし

資料
・諏訪市公営企業運営審議会条例
・諏訪市公営企業事業概要—諏訪市水道局の現状とこれから—

議議題(内容)及び会議結果(要旨)

1. 開会

2. 委嘱状交付

3. 市長あいさつ

- ・水道、温泉、下水道の三事業は、その財源のほぼ全てを料金や使用料収入によって運営しているが、少子高齢化に伴う人口減に伴って使用される水道水の量は減少し、料金収入もそれに伴って減少が続いている一方で施設の老朽化への対応も喫緊の課題となっている。
- ・三事業の運営状況については、本日以降の審議会の席上で水道局から説明を行うので、ご質問や忌憚の無いご意見をお寄せいただく一方で、事業が安全かつ強靱で、持続可能な事業として次世代に引き継ぐことができるよう、ご理解とご協力を賜りたいと考える。

4. 自己紹介

5. 正副会長選出

6. 正副会長あいさつ

7. 諏訪市公営企業 事業概要の説明

- ・諏訪市公営企業運営審議会の位置付け
- ・諏訪市水道局の概要
- ・平成28年度決算の概況

- ・各会計の決算状況の推移
- ・諏訪市水道事業ビジョンの概要
- ・水道事業アセットマネジメントにおけるシミュレーション結果

8. 質疑

【委員】

諏訪市水道事業ビジョンを策定するにあたって、将来の人口はどの程度になると予測したか。

【水道局】

諏訪市水道事業ビジョンの 18 頁に人口の実績と予測結果を掲載している。例えば 10 年後の平成 39 年には、行政区域内人口が 45,000 人程度まで減少する予測となっている。給水収益の予測にあたっては、給水人口とは直接的に関係の薄い事業所系の有収水量についても過年度の実績値等を基に織り込んでいる。

【委員】

人口が減少するとは言っても配水管の先に家屋や事業所がある以上、配水管の更新を行わないというわけにはいかないし、極端な施設のダウンサイジングを行うことも難しいと思う。そういう意味でもかなり厳しい状況にあるということ認識しなければならないと感じる。

【副会長】

配布資料の 17 頁にあるグラフを見ると、人口の減少幅よりも年間総配水量の減少幅の方が大きいようであるが、これはどのような要因によるものか。

【水道局】

水量の減少は、人口減少の影響のみならず、節水型家電や機器の普及の他、使用者の節水意識の高揚によってもたらされるため、人口の減少幅よりも水量の減少幅の方が大きくなっていると考えられる。環境省によれば、節水型家電機器は 10 数年前の家電機器に比して使用する水量が 40%程度少なくてすむとのことである。

【副会長】

配布資料の 17 頁にあるグラフでは、ここ数年は人口減少のカーブと水量減少のカーブが概ね平行になっている。今の説明と合わせて考えると現在は節水型家電機器はある程度普及しきっていて、今後は人口減少幅と連動して水量も減少していくということで良いか。

【水道局】

平成 28 年度の実績でいうと、家事用の使用水量は全体の 55%であり、残りの 45%は営業用や工場用等となっている。家事用の使用水量は、人口減少の影響を直接的に受けて減少するが、それ以外の使用水量については、人口減少そのものが直接的な減少要因となるわけではない。したがって、今後も人口と水量の減少率が同様の動きをすることは限らないと考えられる。

9. その他

10. 閉会